

# 筑波大学が提供する社会人向け3つの大学院教育プログラム

筑波大でのリカレントは、「知識」だけでなく「研究能力」の養成による課題解決力の獲得 ⇒ 「イノベーターの輩出を目指すことによる筑波大らしさの担保」

タイプ A

タイプ B

タイプ C

## 領域横断型 ビジネスプロフェッショナル

- ・社会・組織の問題解決に自立的かつ広範に応用できる研究能力の養成
- ・「研究能力の高さ」が競合との差別的優位性

東京地区社会人大学院修士・博士課程

## 領域特化型 ビジネスエキスパート

- ・特定領域の高度な知識と卓越した「課題解決力」の養成
- ・「専門的な研究能力」  
＋「現場力」＋「マネジメント力」の養成
- ・「専門学位」の授与

東京地区社会人大学院修士・博士課程

## ビジネス・社会志向型 アカデミア

- ・アカデミアに匹敵する高度な知識と研究能力の養成
- ・産官の研究員、専門職大学院等の実務家教員養成

つくば地区大学院, 東京地区社会人大学院博士課程

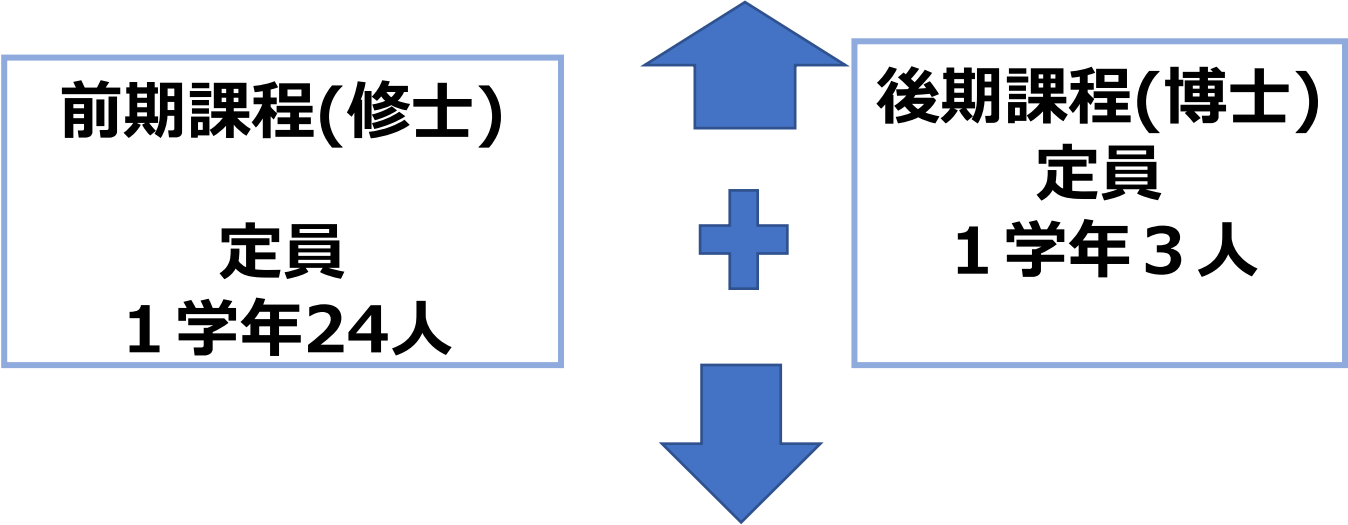
## 筑波大学の社会人教育とは

アカデミック界、社会、ビジネス界の推進・深耕に必要な高度な研究能力を修得(修士)、さらにそれを自立して応用・駆使できる(博士)人材の輩出

# スポーツウエルネス学学位プログラムのこれまでの実績と今後の連携大学院による発展

## 高度職業人として修了生が活躍！

修士424人（2003年開始） 博士8人（2016開始）



SWP	
教授	5人
准教授	2人
助教	2人
特任助教	1人
計	10人

連携大学院



JSC
和久教授 (JISS副センター長)
清水准教授 (JISS前任研究員)

# スポーツウエルネス学学位プログラムの特徴

- 専門博士(研究博士、専門職博士ではなく)として博士(スポーツウエルネス学)の取得
- 研究博士のコースと異なり、学術論文誌の筆頭論文があることを条件としない
- PBL:Project-Based Learningとして課題解決型プロジェクトワークを重視
- グローバルでのマネジメント力向上のために1回以上の国際学会等での発表を修了要件に位置付ける
- 指導教員＋副指導教員(学外1名と学内1名)3名による複数指導体制

## 副指導教員の役割

- スポーツウエルネス研究演習 I (D1)、II (D2)、III (D3)での指導  
⇒年3回
- 研究報告会での指導⇒年1回(D1～D2)
- D3(最終年)での予備審査会、本審査会⇒通常はそれぞれ1回
- 課題解決型プロジェクトワークの審査(テーマ審査、プロジェクト後審査)  
⇒D3夏までにそれぞれ1回